

第10章 内部質保証

1. 現状の説明

(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

<全学単位での内部質保証を目指した自己点検・評価>

本学は以下のように「自己点検・自己評価」の目的を定めている（資料10-1）。

本学の教育と研究を活性化させ、教育と研究の水準を向上させるとともに、本学の教育理念・目的及び社会的使命を達成するための自己改革に資する目的で行う。

本学ホームページでは、法令等に定められた公開情報を公開している（資料10-2）。

①大学の教育研究上の目的に関すること（大学と大学院の教育方針）、②教育研究上の基本組織に関すること（組織図）、③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位および業績に関すること（大学と大学院の教員組織、教員の学位・業績等）、④入学者に関する受け入れ方針および入学者の数、収容定員および在学する学生の数、卒業または修了した者の数ならびに進学者数および就職者数その他進学および就職などに関すること、⑤授業科目、授業の方法および内容並びに年間の授業計画に関すること（大学と大学院のカリキュラム・シラバス）、⑥学修の成果に係る評価および卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること、⑦校地、校舎の施設および設備その他の学生の教育研究環境に関すること、⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること、⑨大学が行う学生の修学、進路選択および心身の健康などに係る支援に関すること、⑩事業報告書および財務情報、⑪自己点検・評価（認証評価）、⑫設置の趣旨等を記載した書類、設置に係る設置計画履行状況報告書について公開している。

<アクションプラン>

本学独自の内部質保証システムとして、教育理念・目的をさらに具体化して1年ごとの各年プランとして設定し全教職員の前でプレゼンテーションを行うアクションプランがある。2008年度より毎年度3月または5月に学長、副学長、学生部長、教務部長などの教学委員会メンバーと、入試部長がその年ごとのアクションプランを発表し、それぞれの部署の到達目標（PLAN）を定めるとともに、教学委員会において到達目標の吟味を行い、1年をかけて実行した（DO）のちに調査や自己点検・評価によって検証し（CHECK）、改善策を翌年示す（ACT）というPDCAサイクルによる内部保証システムがある。そのアクションプランで発表された内容は学内ネット（サイボウズ）に公表するとともに、またアクションプランによせられたアンケートに関しても回答し学内ネット（サイボウズ）で閲覧されている（資料10-3）。

研究科においても、その年ごとのアクションプランを、文学研究科、および専攻ごとに、教育の方針、カリキュラム、FD活動などについて発表している（資料10-3）

<各種調査>

2013年度に実施された入学者調査・非入学者調査、および在校生調査、卒業生調査の結果を全教職員に報告した（資料10-4）。キャリアアプローチなどとともにさらに分析を進めることによってPDCAサイクルにおけるフィードバックの機能を持たせた（資料10-5）。

<FD活動の公開>

学内ネット（サイボウズ）で、全学の授業の自己点検・評価に関して学科、部門、各教員の報告書、学生の意見を聞く会への回答、FD WEEK アンケート結果が公開されており、学内からは可視化されている。また、学部、研究科の学生による授業評価アンケート集計、学生の意見を聞く会への回答は学内サイトにより学生にも公開されている。

<教育情報および教員の研究教育業績について>

ホームページ上でシラバスをはじめとする教育情報については公開されており、さらに教員の研究教育業績については業績プロを活用して随時更新が可能となっている。学外者に対してもホームページ上で全員が公開している。

<学部・学科（専攻）・センター・研究科単位での内部質保証を目指した自己点検・評価>

学部単位でも PDCA サイクルを構築している。2009 年度より、各学部長、学科長、専攻長、センター所長がアクションプランを発表し、それぞれの組織単位の到達目標を示して問題点を改善するという PDCA サイクルを実施している（資料 10-3）。

さらに文学部は、2014 年度学部会議と学部実務会議を開催し、学生の履修状況を的確に把握し、それに基づいたカリキュラムの検討を行った（資料 10-6）。また 2015 年度以降のカリキュラムについても各学科から意見を聴取し、見直しを検討している。学生による授業評価アンケートの実施結果や学生の意見を聞く会から得たデータをもとに各教員が自己点検・評価を行い、さらに各学科長が所属学科の自己点検・評価をし、学部長が学部の自己点検・評価を実施している。

一方人間科学部は、2014 年度学部会議を開催し学科・専攻ごとにカリキュラムを検討した（資料 10-7）。学生による授業評価アンケートを各教員が活用して自己点検・評価を行っている。さらに各学科長・専攻長が所属教員の自己点検・評価を総括し、学部長が学部の自己点検・評価を実施している。

2013 年度に一部の学科で作成した履修系統図をモデルとして 2014 年度は全学科で配当年次表を作成し、カリキュラム・ポリシーにそった教育課程となるように科目の見直しを行った。2013 年度、人間科学部では人間科学部改編プロジェクトを約 6 カ月にわたって開催した。その結果は答申としてまとめられ、人間科学部の学科構成、カリキュラム、学科定員、教員構成について綿密な検討が行われた（資料 10-8）。

研究科においても、2012 年度から授業アンケートを継続的に実施し専攻すべての授業の集計値が集計され、文学研究科長・専攻代表からのコメントが寄せられ公表されている。個別の授業の集計値と記述された意見も授業担当教員へ伝えられており、授業とカリキュラムの改善に生かされている（資料 10-9）。

(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。

<自己点検・評価運営委員会>

本学では、大学全体の内部質保証の責任を負う組織として「自己点検・評価運営委員会」がある（資料 10-1）。学長、副学長、教務部長、学生部長、事務局長、入試部長、学部長、研究科長、全学共通教育センター所長、外国語教育センター所長および事務部門 1 名で組織している。

<自己点検・評価実施委員会>

自己点検・評価運営委員会における自己点検・評価を有効にかつ効果的に実施するため

に、各学部、研究科、センター、教育行政部門にそれぞれ「自己点検・評価実施委員会」を置き、各部門の構成員が委員となって点検・評価することを規程で定めている。

<FD委員会>

本学では以下のようにFD委員会の任務を定めている(資料10-10)。

授業内容、授業方法を改善し、教育内容を向上させるための全学的取組みを推進することを目的とする。

FD委員会では学科長、専攻長、センター所長が所属する教員のすべての自己点検・評価を分析し組織単位の改善計画を提出している。

大学院FD委員会も、研究科長、各専攻代表、副学長、教務部長で組織され学部のFD委員会と連携をとりつつ授業改善に取り組んでいる(資料10-10)。

<教員による自己点検・評価>

半期ごとに実施される授業評価アンケートなどを資料として自己点検・評価を行い、全教員に自己点検・評価報告書を課し提出させている(資料10-11)。さらに学科、専攻、教育センター、学部・大学院単位で点検をした(資料10-12、資料10-13)。授業評価アンケートの集計結果は学内サイトで公開されている。

学部においては、毎年1回FD WEEKを設けて、教員相互による授業参観をし、参観者および授業者それぞれのコメントを集計してFD委員会で報告している。また学生による授業評価アンケートは前期と後期に全科目実施しており、それぞれの部門およびFD委員会で各教員のアンケート結果を検討している。学生への授業に関するインタビューを行い(授業について学生の意見を聞く会)、インタビュー内容をFD委員会でまとめ、問題点を学科、専攻、センター、事務部門において検討し改善内容を学内サイトで学生にフィードバックしている(資料10-14)。

研究科においては、少人数授業が多いので匿名性確保のため情報教育センターと連携して本学オリジナルのシステムを作成し、ウェブ上での回答という形式をとった。カリキュラム・研究指導・教育環境に関する自由回答も用意し、問題点については研究科長・専攻代表・副学長・教務部長で必要に応じて対応し改善している(資料10-13)。

(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

神戸松蔭女子学院大学に対する大学評価(認証評価)結果はホームページに公表している(資料10-2)。また、2009年の認証評価時に受けた指摘事項に関しては、2012年7月に改善報告書を提出し、2013年3月に改善報告書の検討結果を受理した。新学部・学科の設置に係り、完成年度までの設置計画履行状況報告書を作成して文部科学省に提出している。これにより設置計画書に基づいた教育の質保証を機能させている。設置計画履行状況報告書は本学ホームページで公開している(資料10-2)。

学生による授業評価アンケート、FD WEEK、学生の意見を聞く会などの情報は、FD委員会、大学院FD委員会から学科・専攻、センター、さらには全学的組織である自己点検・評価運営委員会へと改善のためにフィードバックされ、学内ネット(サイボウズ)にも掲載されている。

寄附行為に基づき運営されている理事会と評議員会には、それぞれ2名の外部理事、13名の外部評議員が任命されており、経営にかかる重要事項について学外からの視点を反映

させている。また日常的な事項を扱う常務理事会には1名の外部理事が常時出席している。

また教育後援会において保護者からの意見を聴取し、教育方法や施設の改善に役立てている。

2013年度は卒業生調査を行い、1,261名の卒業生から卒業後のキャリアに本学の教育がいかに関与したか、また卒業後のキャリア支援プログラムに本学がどのように貢献できるか、データを収集した(資料10-4)。

2. 点検・評価

●基準10の充足状況

大学の諸活動については点検・評価を行ってその結果を公表しており、内部質保証に関するシステムは整備され適切に機能している。大学ポートレートにも参加し受験生を含む社会に情報を公表している。しかし一部のデータは学内情報に留り、自己点検・評価の結果を到達目標にフィードバックする、あるいは自己点検・評価に加えて学外者の意見を取り入れるなどの工夫はまだなされていない。

①効果が上がっている事項

アクションプラン発表会を毎年開催することにより、大学が目指す目標が明確になり、PDCAサイクルが回って教職員全員が情報を共有できている。またアクションプラン発表会に職員が参加することによって教職協働が可能になってきている(資料10-3)。学部会議・学部実務会議の開催によって、学科を超えた科目の乗り入れや履修指導の共通化が可能になり学修成果の検証や学修支援の適切性を確認するための一助となっている。

2013年度一部の専攻ではあるが、教員が各専門分野の視点からディプロマ・ポリシーに基づいた評価指標を開発し、ルーブリックによって客観性・厳格性を確保する試みをした(資料10-15)。各学部における自己点検・評価、在校生調査、卒業生調査、キャリアアプローチが実施され、その結果は学修成果の指標としてとらえられ、大学全体の組織改革へとフィードバックされている(資料10-4、資料10-5)。

②改善すべき事項

在校生調査、卒業生調査、キャリアアプローチなどのデータは一元化されたデータ・ベースとはなっていない。また全学を通じて、教員の自己点検・評価を授業評価アンケートに対する単なるコメントとして理解する教員もおり、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに沿った到達目標の設定やシラバスの授業計画までフィードバックされているとはいえない。様々な調査や報告書がその時ばかりのデータとして使われるだけでデータとデータを関連づけて解釈する視点が乏しい。

3. 将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

アクションプランについては、今後も継続する予定であるが、学科・専攻の到達目標と学長室・教学委員会の到達目標の摺合せがさらに必要である。さらに、年度ごとの目標が中長期のプランとどのように連結するかについても検討が必要である。

学修成果の測定については、卒論について一部の専攻でルーブリックを作成したが、今後は他の学科・専攻でもそれぞれのディプロマ・ポリシーにあったルーブリックを作成する予定である。またルーブリックによる学修成果測定がカリキュラム編成に反映されるように、教務委員会で検討していきたい。

研究科においては、大学院 FD 委員会が学修ポートフォリオの実施を計画している（資料 10-16）。学修ポートフォリオは、学生自身が履修にあたってシラバスに書かれた到達目標を参照しながら学修目標を設定し、授業終了時点での学修を振り返ることを目的としている。大学院 FD 委員会で整理し、大学院の授業や研究教育の改善に役立てることができるように、大学院委員会で検討していきたい。

②改善すべき事項

カリキュラムに関しては、日本学術会議および公益社団法人私立大学情報教育協会の分野別参照基準を参考にしながらカリキュラム・ポリシーを再度点検したい。履修モデルについて、2014 年度は履修順序を示した配当年次表を履修ガイドに掲載しているが、単に順序を示した履修工程表にとどまっている（資料 10-17 p. 44、p. 52、p. 60）。履修内容の連関を示す履修系統図（カリキュラムツリー）を作成し、さらにカリキュラムの改訂に伴い改善していく。

本学では、学外からの意見を聴取し、大学の自己改革に反映させるシステムがまだできあがっていない。学部、研究科の研究活動における第三者の意見を反映させるシステムづくりとして特定不正行為の告発に係る調査委員会に外部有識者を半数以上入れる予定である。

4. 根拠資料

- 10-1 自己点検・自己評価に関する規程
- 10-2 神戸松蔭女子学院大学ホームページ抜粋「公開情報」
<http://www.shoin.ac.jp/guide/publication.html>
- 10-3 アクションプラン発表会配付資料（2013 年 5 月 30 日、2013 年 3 月 21 日）
（既出 2-2）
2014 年度アクションプランへのコメントへの回答（学長室）（既出 3-12）
アクションプラン大学院文学研究科（2014 年 5 月 29 日）（既出 5-24）
- 10-4 2013 度 神戸松蔭女子学院大学卒業生調査 報告書 2014 年 2 月（既出 1-15）
2013 入学者調査・非入学者調査（既出 5-23）
2013 在校生調査集計レポート 2013.9（抜粋）（既出 4(4)-2）
- 10-5 2014 年度大学生基礎力調査（自己発見レポート I キャリアアプローチ）結果報告
（既出 1-23）
- 10-6 文学部 学部会議 議事録（2012 年度～2014 年度）（既出 1-18）
文学部 3 学科実務会議 議事録（2013 年度、2014 年度）（既出 2-14）
- 10-7 人間科学部 学部会議 議事録（2012 年度～2014 年度）（既出 1-19）
- 10-8 人間科学部改編プロジェクト会議議事録
人間科学部改編プロジェクト第 7 回資料

- 人間科学部の改編について答申（既出 2-12）
- 10-9 大学院委員会 議事録（2012 年度第 6 回、第 11 回）（既出 2-5）
- 10-10 FD 委員会規程
大学院 FD 委員会規程
- 10-11 2013 年度 担当授業に関する自己点検・評価集 CDR（既出 2-4）
- 10-12 各教育センター、学部、学科長による自己点検・評価（2013 年度前期・後期）
- 10-13 2013 年度後期 大学院授業改善のためのアンケート集計結果（既出 3-26）
- 10-14 2013 年度「授業について学生の意見を聞く会へ」の回答（既出 1-17）
- 10-15 2013 年度 生活学科都市生活専攻 教育目標達成度評価 ルーブリック
（既出 4(4)-4）
- 10-16 大学院委員会 議事録（2014 年度 第 7 回、第 8 回）
学修ポートフォリオの運用
- 10-17 2014 年度 神戸松蔭女子学院大学 履修ガイド（既出 1-6）